

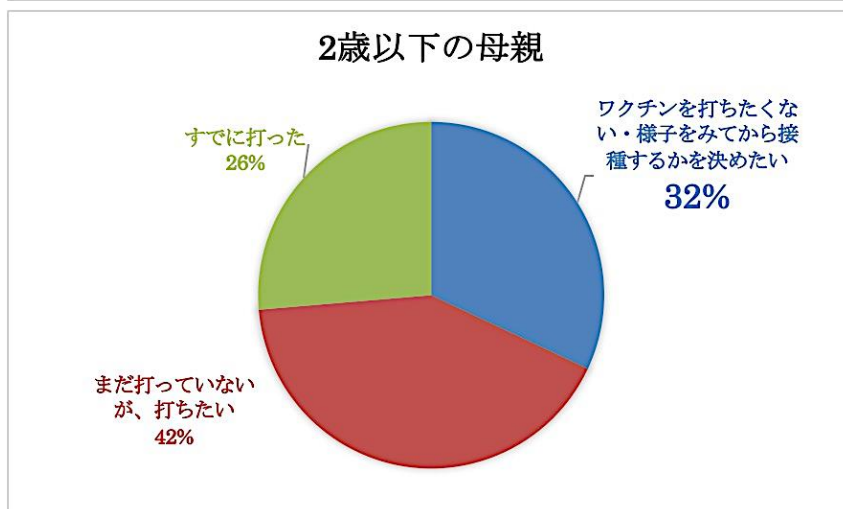
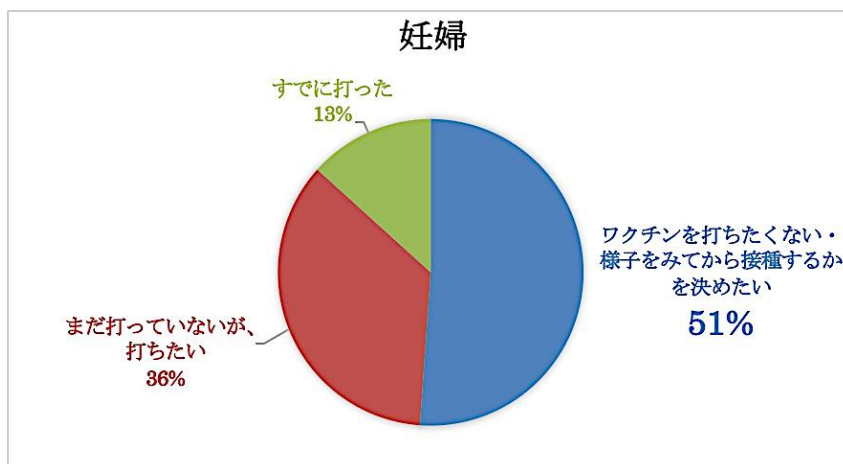
報道関係者各位

2022年11月25日  
 国立成育医療研究センター

## 妊婦と2歳以下の子の母親の 新型コロナワクチン接種意向に関するインターネット調査

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵、理事長：五十嵐隆）社会医学研究部の森崎菜穂部長、石塚一枝研究員、教育研修部の高橋揚子臨床研究員、国立国際医療研究センター上級研究員大川純代、大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部部長補佐田淵貴大らは、妊婦と2歳以下の母親の新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に対する意向とその要因を調査、分析した研究結果を発表しました。本研究は、2021年7月から8月のデルタ株による第5波の流行下に、インターネットを使用した「日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題による社会・健康格差評価研究(JACSIS study)」を利用したもので、妊婦と乳幼児の母親の新型コロナワクチン接種意向の現状とその要因を明らかにした貴重な報告です。

本研究では、新型コロナウイルスワクチンに関して「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と答えた方の割合は、妊婦で51%、2歳以下のこどもを持つ母親では32%と妊婦で多いことがわかりました。



また、新型コロナワクチン接種意向の背景因子を調べたところワクチン情報を批判的に判断することの少ない妊婦が、「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と答えていました。一方で、2歳以下の子の母親では、受け取った情報を正しく理解する傾向にない人が、「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と回答しました。本研究の結果から、ワクチン接種意向を高めるためには、妊婦と2歳以下の子の母親へそれぞれ異なるアプローチが必要であると考えられます。

本研究結果は日本ワクチン学会の国際学術誌である *Vaccine* に公開されました。

### 【プレスリリースのポイント】

- ・2021年7-8月のデルタ株流行期に、インターネットを用い、全国の妊婦と2歳以下の子どもを持つ母親10000人を対象に調査を行い、7327人から回答を得て解析を行いました。
- ・新型コロナウイルスワクチンに関して「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と答えた方の割合は、妊婦で51%、2歳以下の子どもを持つ母親では32%でした。妊婦のほうがワクチンに対して消極的であることがわかりました。
- ・ワクチン接種への消極性にはワクチンリテラシー<sup>1</sup>が関連しており、妊婦では、ワクチンリテラシーの中でも情報をコミュニケーションの中で批判的に吟味し、実行に移す「相互作用の(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」が低いことがワクチン忌避と関連していました。一方で、2歳以下の子の母親では、情報を受け取り、理解する「機能的(functional)ワクチンリテラシー」がより関連していました。
- ・ワクチンリテラシーの違いにより、妊婦では「お腹の子どもや授乳中の子どもへの影響が心配だから」、小さな子どもを持つ母親では「ワクチンが感染や重症化を予防する効果があまりないと思うから」、「ワクチンの成分を信用できないから」という理由でワクチン接種への消極性につながっていることがわかりました。
- ・妊婦は、妊婦健診等で定期的に医療機関を受診する機会があることから質の高い情報を平等に得られる機会があるため、それらの情報を活用し行動に移すためのコミュニケーションの場を支援することで「相互作用の(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」を高め、ワクチン接種率の向上が期待されます。一方で、若い子どもを持つ母親には、誰にでもわかりやすく、質の高い情報を届けるための支援が望まれます。

---

#### 1 ワクチンリテラシーとは

ワクチンリテラシーとは、ワクチン情報に対する情報リテラシーであり、ワクチン接種意向を決定する要因の1つです。ワクチンリテラシーには以下の種類があります。

##### 機能的(functional)ワクチンリテラシー：

日常生活場面で役立つ読み書きの基本的能力をもとにしたもので、ワクチンに関する情報を受け取り、理解するスキル

##### 相互作用の(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー：

能動的なコミュニケーションにより情報を取得、理解しようとしたり、受動的に受け取った情報を批判的に吟味し、自らの行動を決定するスキル

## 【背景・目的】

新型コロナウイルス感染症の感染、重症化予防にはワクチンが有効であり、重症化リスクの高い妊婦ではワクチン接種が推奨されています。また、これまでの報告から妊婦やこどもを持つ若年女性では他の世代と比べてワクチン接種率が低いとされています。乳幼児期には、新型コロナ以外の接種すべきワクチンが多く、新型コロナウイルス感染症パンデミック下には、それらのワクチンの接種率の低下も報告されており、小さなこどもを持つ母親のワクチン全般についての接種意向も重要な課題です。

ワクチン接種意向を決定する重要な要因の1つとして、ワクチン情報に対する情報リテラシーである「ワクチンリテラシー」があり、リテラシーを高めることで、ワクチン接種率の向上につながることが期待されています。

今回、インターネットを使用した「日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題による社会・健康格差評価研究(JACSIS study)」を利用し、妊婦と乳幼児の母親のコロナワクチン接種意向の現状とワクチンリテラシーとの関連を調べる目的で研究を行いました。

## 【主な結果】

- ① 新型コロナウイルスワクチンに関して「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と答えた方の割合は、妊婦で51%、2歳以下のこどもの母親では32%でした。妊婦のほうがワクチンに対して消極的であることがわかりました。
- ② 妊婦では、「相互作用的(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」が低い人は高い人と比べて1.69倍ワクチン忌避になりやすいことがわかりました。一方で、2歳以下のこどもの母親では、「機能的(functional)ワクチンリテラシー」が低い人は高い人と比べて1.37倍ワクチン忌避になりやすく、「相互作用的(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」が低い人は高い人と比べて1.28倍ワクチン忌避になりやすいことがわかりました。

	妊婦			2歳以下の子の母親		
	リスク比	95%信頼区間	P値	リスク比	95%信頼区間	P値
<b>機能的ワクチンリテラシー レベル</b>						
高い	基準	-	-	基準	-	-
中間	0.78	0.58-1.06	0.108	0.97	0.83-1.13	0.677
低い	0.81	0.60-1.09-	0.181	<b>1.37</b>	<b>1.18-1.60</b>	<b>&lt;0.001</b>
<b>相互作用的/ 批判的ワクチンリテラシー レベル</b>						
高い	基準	-	-	基準	-	-
中間	1.60	1.19-2.17	0.002	0.92	0.79-1.08	0.296
低い	<b>1.69</b>	<b>1.23-2.31-</b>	<b>&lt;0.001</b>	<b>1.28</b>	<b>1.10-1.49</b>	<b>0.002</b>

- ③ 「ワクチンを打ちたくない・様子を見てから接種するかを決めたい」と答えた理由については妊婦、2歳以下の母親ともに「副反応が心配だから」が最多でした。妊婦では「相

互作用的(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」と関連して「お腹の子どもや授乳中の子どもへの影響が心配だから」という回答が多く、2歳以下のこどもを持つ母親では「機能的(functional)ワクチンリテラシー」と関連して、「ワクチンが感染や重症化を予防する効果がありません」という回答が多いことがわかりました。

- ④ ワクチンリテラシーが高い人は、信頼できる情報を得るために、医療従事者、専門家、官公庁や大学・学会などの研究機関のウェブサイトを利用している割合が高いことがわかりました。また、妊婦は医療従事者から情報を得ている割合が高いこともわかりました。

### 【今後の展望・発表者のコメント】

本研究により、妊婦と幼いこどもを持つ母親のワクチン接種意向には異なるタイプのワクチンリテラシーの違いが関係しており、それらがワクチン接種を決める理由や情報収集の方法につながっていることが明らかになりました。妊婦は、妊婦健診等で定期的に医療機関を受診する機会があることから質の高い情報を平等に得られる機会があるため、それらの情報を活用し行動に移すためのコミュニケーションの場を支援することで「相互作用的(interactive)/ 批判的(critical)ワクチンリテラシー」を高め、ワクチン接種率の向上が期待されます。一方で、幼いこどもを持つ母親には、誰にでもわかりやすく、質の高い情報を届けるための支援が望まれます。

今後、それぞれの集団に対してより効果的な支援をしていくことでワクチン接種率の向上につながることを期待され、政策提言につなげていきたいと考えています。

### 【発表論文情報】

英文タイトル：COVID-19 vaccine literacy and vaccine hesitancy among pregnant women and mothers of young children in Japan

和文タイトル：日本における妊婦と小さなこどもを持つ母親の COVID-19 ワクチン忌避とワクチンリテラシーの検討

執筆者：高橋揚子<sup>1,2</sup>、石塚一枝<sup>1</sup>、三瓶舞紀子<sup>1,3</sup>、大川純代<sup>4</sup>、細川義彦<sup>5</sup>、石黒精<sup>2</sup>、田淵貴大<sup>6</sup>、森崎菜穂<sup>1</sup>

所属：1:国立成育医療研究センター 社会医学研究部

2: 国立成育医療研究センター 教育研修センター

3: 日本体育大学体育学部 健康学科

4: 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター

5: 筑波大学医学医療系産科婦人科学

6: 大阪国際がんセンター がん対策センター疫学統計部

掲載誌：Vaccine

DOI：10.1016/j.vaccine.2022.09.094

### 【本リリースに関する問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 広報企画室 近藤・村上  
電話：03-3416-0181 (代表) E-mail:koho@ncchd.go.jp